

No. 139

2009
Dec.

12

KSKR

きずな
THE KIZUNA

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎日発行

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

奈良県自閉症協会
ニュース

発行人:

関西障害者定期刊行物協会

編集人: 奈良県自閉症協会

支部長&事務局: 河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料 1部 100円

会員は会費に含まれています。

早く成熟してほしい日本社会

今 学校教育では特別支援教育を受ける児童生徒が急増しており、この4年のあいだに、公立小中の通常学級の子どもたちは215,000人減っているのに、特別支援教育・学校の児童生徒は47,000人増加しているという。中でも、自閉症など発達障害児の在籍者数が急増している。これは特別支援教育の社会的認知度と、手厚い支援を求める親が増えてきたためだと、文科省などは見ている。自閉症は早期発見・早期療育が必要で、それぞれの症状に応じて適切に教育し、支援することが重要だといわれます。障害を持って生まれてきても大丈夫、障害を持った子どもを産んでもいいんだよ、という、成熟した社会は人類の目指すべき方向であり、親の願いです。事業仕分けで、できるだけ予算の

無駄をなくするのは大切ですが、障害児の学級数が増えても、財政的な補償を優先する国であってほしいものです。

そんな中、鹿児島県阿久根市の竹原信一市長は、障害者が生まれることは悪であり忌むべきことととらえているようである。これまでなら、自然淘汰していた障害をもった子どもが、近年の高度医療の発展により、出生増加していると発言した。どんな命も大切にしようという動きとは正反対のこの差別発言を、だれでも見られるインターネットの自分のブログに書いていたことが明らかとなった。

障害をもつ者も持たない者も、あたりまえに暮らせる社会作りを目指そうという動きと、あり得ない、健常者だけで構成された社会を望む人がいるという、この二極端のニュースに皆さんはどう思われますでしょうか。(河村)

特別支援学級 児童生徒急増で教員が足りない

特 障害を抱えて特別支援教育を受ける児童生徒が急増し、教員数の確保が難しくなっている実態が文部科学省のまとめで分かった。今年度までの4年間で、公立小中学校の通常学級在籍者は21万5000人減ったが、特別支援学級・学校の児童生徒は逆に4万7000人増えた。「通常学級は40人、特別支援学級は8人」と法定の学級編成基準が大きく異なるため、少子化でも学級数は増え続けている。【加藤隆寛】

特 別支援教育は06年の学校教育法改正で位置付けられた。注意欠陥多動性障害(ADHD)▽学習障害(LD)▽知的障害を伴わない高機能自閉症――など従来の特殊教育で支援できなかった軽度発達障害の児童生徒も対象に含めた。小学生の場合、特別支援学級と特別支援学校(旧盲・ろう・養護

学校)の在籍者数は昨年度までの15年で1.6倍となっており、中学では1.4倍となっている。

特別支援学校の学級編成は、特別支援学級より少ない6人(重複障害者は3人)が基準。通常学級は少子化に伴い今年度までの4年間で8529クラスが要らなくなったが、同じ期間に特別支援学級・学校で計9895クラスが必要となった。

また、通常学級から別の教室に通い「通級指導」を受ける児童生徒も急増している。昨年度は小中で計4万9685人と、93年度(1万2259人)の4倍に達し、対応する教員の不足が問題となっている。

特別支援教育を受ける児童生徒の急増を、文科省は「はっきりした理由は不

明だが、特別支援教育の社会的認知度が上がり、手厚い支援を求める親が増えてきたことが背景にあるのでは」と見る。

こうしたデータは、文科省が行政刷新会議の事業仕分けのために作成した資料で表面化。25日は教職員給与に充てる義務教育費国庫負担金(1兆6380億円)が仕分け対象となり、同省が要求する教職員定数増などについて議論される。同省は「子供の数の減少に応じ、教員を減らしてもよいということにはならない」と主張する。(11月25日15時12分配信 毎日新聞)

○「高度医療が障害者生き残らず」阿久根市長ブログ記述「差別発言」 団体、市議が反発

鹿児島県阿久根市の竹原信一市長が、自身のブログ(日記風サイト)で「高度医療が障害者を生き残らせている」などと障害者の出生を否定するような記述をしている。障害者団体は差別的発言として反発。市議会でも「人権無視だ」として追及する動きが出ている。

記述は11月8日付。医師不足問題で勤務医の給与を増額すべきだとの議論を批判する中で「高度医療のおかげで以前は自然に淘汰(とうた)された機能障害を持ったのを生き残らせている。結果 擁護施設に行く子供が

増えてしまった」と記述。さらに「『生まれる事は喜びで、死は忌むべき事』というのは間違いだ」と主張している。

知的障害者の家族でつくる「全日本手をつなぐ育成会」(本部・東京、約30万人)の大久保常明常務理事は「障害者団体だけでなく、一般の人もびっくりする話。阿久根市が、どう障害者福祉に取り組むのか心配だ」と懸念。鹿児島県身体障害者福祉協会の福浦義博事務局長も「医療の進歩と障害者の増加は別次元の話。市を代表する人が差別的考えを持っているのは遺憾としかいいようがない」とあきれろ。

市議の1人は「障害者の記述は人権無視の差別発言。市長が書き込むことではなく見逃せない」とし、14、15両日の市議会一般質問で謝罪を求めたいとしている。

竹原市長はこれまでも自身のブログで「辞めさせたい市議」のアンケートをしたり、市議選の立候補者を中傷する動画を無断で張り付けたりして、物議を醸している。(2009/12/04 西日本新聞朝刊)

成人

人の自閉症の人の為の勉強会
あざさ苑にて 続けて参りました勉強会も無事終了いたしました。追加で 更に1回のお時間を頂いた第5回目は 診断を受けてから人生の終焉まで、途切れる事なき支援の継続を願って
どんな支援が必要か どんな活動が有効か 奈良県自閉症協会の現状やその強み、弱み、機会・脅威などSWOT表を 個人的に 又は 団体として それぞれの思いや意見を入れて 書き込んでいきました。
渡辺さんが これまで ご自分の施設に関して 分析されてきた経験を生かしての いろんな ご意見やアドバイスや 感想を頂きました。 自閉症協会はまだまだ これから、いろんな可能性が広がっている様子。今度もこのような じっくりと分析しながらの活動が大切だと 実感致しました。お忙しい中 お時間を作っていただき 勉強会にお付き合い頂いた渡辺様に 心より感謝いたします。

工房あすく 見学会報告

今年のNHK ハートフォーラムのテーマは「自閉症支援・京都にいきて一親と専門家の協働」という事で 京都での実践の1つ、NPO生活支援センターあすくや 工房アスクでの活動の様子を報告されました。京都での40年以上の活動の歴史には 奈良とは比べようありませんが 支部の発足当時から いつも活動の参考とさせてもらってきた京都で 新しく作られた施設の見学を 成人部から行ってきました。

見学は 利用者さん達を考慮して 団体の場合は 終了後しか可能ではありませんでしたが その分、細部まで観察させてもらい、質問もいろいろできました。

工房アスクは 京都府自閉症協会が設立した、「NPO生活支援センターあすく」が運営している通所施設です。そのため 利用条件は 18歳以上の自閉症スペクトラムの人、支援は自閉症に特化した支援となっています。

障害者自立支援法にもとづく事業所として京都府の指定を受け、生活介護と 自立訓練(生活訓練)多機能型事業所です。

その支援方法には 利用者さんそれぞれ個別の多様な

支援を そのニーズに合わせて柔軟な提供を目指しておられます。自立訓練は障害区分の定めはないため、高機能自閉症やアスペルガーの方たちへの 支援にも対応しておられました。活動内容は 個別支援計画に基づいて、作業プログラム、運動プログラム、社会生活訓練、余暇活動、レクリエーション等をされて、構造化や視覚支援等の 自閉症の人への細やかな配慮がされていました。専門家のアドバイスを絶えず 身近で受ける事が可能な事もありますが その人だけの支援となる方法を 限られたスペースと予算と人手の中で 随所に工夫がされていました。

ブログに支援者さんたちのお顔が掲載されていて この人数で支援されているのか？と不思議でした。それは 準備万端の中の支援で 1対1で 寄り添う必要はなく その場面では 見ただけで理解でき 知的に重くても コダワリが強くでも それなりに 迷う事なく不安になることもなく 動ける事が理由だと分かりました。

私たちが見学の時間は 利用者さんは退所された後でしたが その利用者さんがおられない時間帯に 次の日からの活動の準備として いろんな視覚支援に必要な準備をされていました。

こっそりと 利用者さんのおられる時間に どんな様

子で過ごされているのか 覗いてみたいなあ！と また機会があれば そのような見学も考えておられるとの事。

工房あすく主催、「門真一郎先生の この春の連続セミナー」での いろんなお話が 随所に頭をよぎりました。実践されている事は 特別なことではなくて 自閉症支援には自然の事だと感じ、これが 場所が変わって奈良でも決して不可能ではないと 思えました。

平成21年 11月18日

工房あすく <http://koboask.blog32.fc2.com/>



「保護者のための勉強会」と「実践勉強会」

5 月より毎月重ねてきました保護者のための勉強会も 後1月のみとなりました。

12 月は「困った行動 どうしたらいい から何故？」

- ・「問題行動」とは～誰にとって「問題」なのか？
- ・一番大切な事＝やめさせるではなく、起こさせない
- ・原因を正しく理解すれば 解決方法は見えてくる。

そんなお話を波多野先生からお伺いした後、実際に今、困っている事をそれぞれ参加者が「ターゲットになる行動」として1つに絞ってみました。原因って心当たりはあるけど本当にそうなのか？とか全く見当もつかないとか、本当に本人は困っているか？ どの行動ターゲットにするか？みんなで考えてみました。まずは、その分析と正しい理解の為に ターゲットになる行動を 観察して記録にとって見る事になり、「行動観察記録用紙」を次回までの宿題として持ち帰りました。次回にその記録を元にどんな分析結果がでてどんな原因と対策にたどり着けるか楽しみです。

次回 保護者の為の勉強会

1月21日(木) 10:30~12:30 田原本 奈

良県心身障害者福祉センター

12月に欠席された方で1月参加の為、記録用紙が必要な方はご連絡ください。

保護者のための勉強会と並行して行っている実践勉強会もいよいよ終盤。

実践勉強会の療育クラスでは、子供たちもここでは何を期待されていて何をしたらよいか？をしっかりと、理解してくれています。

12月は、毎年恒例のクリスマスケーキ作りです。自立課題もそれぞれ改良を加えて個人にあった工夫が進行中。また、SKIP ブログものぞいてみてくださいね。

SKIP ブログ <http://skipnara.blog72.fc2.com/>

実践勉強会の就労・ソーシャルクラスも宇陀の畑への玉ねぎ植えを終え、しばらく場所を高橋ビルに活動を移します。12月は、お料理教室の計画をいたしました。

宇陀の城山ファームでとれたサツマイモは、湯浅さん手作りのおいしいスイートポテトに変身し、メンター養成講習会にて皆さんで食べてもらいました。これならばバザーやお店にも出せる！と大評判。このレシピで宇陀の畑のサツマイモをつかってのお料理教室と「お買い物」のソーシャルスキルも入れた材料の買い出しからケーキのデコレーションまでのソーシャル版ケーキ作り教室の

2つのご案内です。

実

実践勉強会 就労・ソーシャルクラス

* 宇陀の無農薬サツマイモのスイートポテト (美奈子風) のお料理教室

日時 12月20日(日) 13:30~16:00

* お買い物から挑戦! 手作りクリスマスケーキ教室

日時 12月23日(祝) 10:00~13:00

どちらも 定員 5名まで (小学生5年生以上)

場所は 高橋ビル 4階 SKIPの部屋にて

両日とも締め切り 12月17日 まで

申し込み先

TEL/FAX 0744-33-4755 (留守電へ)

E-mail m-ueshima@k2.dion.ne.jp

来年は 玉ねぎを使って お料理教室開催したいです。

レシピ案がある方は、ご連絡くださいね。

一療育部施設見学会の感想一

11月24日火曜日、「たんぼぼの家」見学会に参加させて頂きました。

はじめは「たんぼぼの家」さんが出来るまでの経緯や理念などをスライドで見せて頂き、その後、現場見学をさせて頂きました。様々なハンディの方がたくさんおられ、企画部やPC操作に始まり、絵画や書道、造形や織物、焼き物、販売等、それぞれが自分にあった役割があり、環境に恵まれるというのはこういう事をいうんだなと、しっかり目を見て確かめる事が出来ました。その中でもたんぼぼの家に来るまで、全く絵の才能があるなんて、親も先生も全くわからなかったという山野将志さんとの出会いは大きかったです。

良い環境に恵まれ、自分の居場所や役割があるということは、本当に幸せな事だなと、改めてそう思いました。しかしながら、『良い場所は既にいっぱいであるのが難しい』&『利用者の平均賃金の額』など、厳しい現状にも色々感じる事がありました。

また、「たんぼぼ」の運動16年の記録が書かれた『花になれ 風になれ』を頂き、ここに至るまで、本当に色ん

な活動や訴えかけ、様々な繋がりを通してやっところまで辿り着けたんだと知り、改めて頭が下がります。

このような素晴らしい場所をできるだけ財政負担もかけずに、本当に必要なサービスを繋がることでもっと増やしていければいいのになと思いました。

見学の後は美味しいランチを頂きました(*^▽^*) 真心こもったお料理に癒されました♪ありがとうございます

療育部 新年会のお知らせ

今年もあと少しとなりました。皆さん、風邪などひかれてませんか。

一年を振り返ってみてどうですか。

大変だけど頑張った自分をおおいに褒めてあげましょう!

来年もきっといろいろある。でも頑張りましょう。

ということで療育部では恒例の新年会を行います。

おいしい料理を食べながら苦労話を笑い話にかえ、

みんなでおおいに盛り上がりましょう。

みなさんの参加をお待ちしています。

日時: 2010年1月19日(火) 11:00~13:00

場所: かに道楽 奈良本店

電話 0120-632-532

奈良市西九条町5-2-9

車: 国道24号線ロイヤルホームセンター斜め向かい
電車 JR 郡山・近鉄郡山・近鉄九条駅より徒歩30分
自己負担: 1000円

※お子様連れで別に料理が必要な方は、本人負担となります。申し込み締切: 2010年1月5日(火)

北部 石原 0742-36-6298

南部 吉村 0745-52-8889



♪ 11月ケンケンパ例会リポート

日時：11/30 (月) 9:45 ~ 12:00

場所：大和郡山福祉会館

参加者：4名

内容：・グループワーク「工夫上手への道 一課題中の逸脱への対処」、実践発表

トークセッション (担当 山田さん)

・総括 (担当 飯田)、次回予告、フリートーク

第三回目は前回、各自ができそうな目標設定を決めたことを発表してもらいました。

Yさんがあげてくださった「朝の用意」、「一日、一週間のスケジュールの把握」の理解、実践。

ここで見せていただいたグッズが皆の目を引きました。

スケジュールカードをビニールでできているポケットに入れ込んでいます。

カードは絵や言葉が書かれておりすっきりとして見通ししやすいものでした。

これなら彼らもなにをしなければならぬのかがよくわかると思いました。

本当に実践されたYさん、すばらしい！今後も引き続き子どもさんと共にがんばってほしいです。

参考：アドプラス (支援グッズ販売) <http://www.addplus.jp/>

もうすでに学校でやっておられるところもあると思いますが、応用編として会社などでも仕事のプライオリティ (優先順位)、納期などの判断に活用できるのではないのでしょうか。見やすく視覚化されることで効率もあがることを期待されます。

今年一年、先輩部会である療育部、成人部の皆さま、ならびに会員、教育、福祉関係者の方々にはご指導やアドバイスをいただき本当にありがとうございました。

高機能自閉症、アスペルガー症候群という名前はここ数年でずいぶん浸透していつているようには感じますがまだまだ当事者と向き合い、声を聞き、それが反映されているとは云いがたい状況化にあると思います。特に青年期、成人期の彼らにとってはこの世情の厳しさの中就学、就労も思うにまかせぬところであります。ぜひともこれからの時代を担う彼らのためにお力添えを賜りますよう来年もどうぞよろしくお願いいたします。

次回予告

ケンケンパ定例会のお知らせ

12月ケンケンパ定例会のお知らせ

(奈良県自閉症協会高機能・アスペルガー部会)

場所：大和郡山福祉会館 大会議室

日時：12月14日 (月) 9:45 ~

お問い合わせ&申込み：info@kenkenpa.org

いよいよペアトレも最終回になりました！「会員さんが会員さんによる会員さんのための」で今年度の世話人ががんばってまいりました (笑)。

今回はフリートークの時間を大幅に作りましたので今年一年のさまざまな思いをトークセッションしてまた来年に向けて良いモチベーションをもちたいと思っています。

多くのご参加をお待ちしております！

※お車でお越しの際は、保健所と福祉会館の間の道に入り、奥の平面巨大駐車場をご利用ください。

おやじの会より新年会のお知らせ

おやじの会で新年会を計画しました。
お忙しい時期ではありますが、是非ご参加ください。
お待ちしております。

日程：1月16日 (土)、18時～
場所：王寺駅周辺を考えております。
(王寺周辺でお勧めのお店がありましたら、是非教えてください。)

ご参加希望の方は櫻井までご連絡ください。
(櫻井 hajime.1216@nike.eonet.ne.jp)

平成21年度 赤い羽根共同募金助成金事業

特定非営利法人奈良県自閉症協会 自閉症の理解と支援の為に映画上映会

ぼくはうみがみたくなりました

原作の『ぼくはうみがみたくなりました』は、自閉症児・大輝（ヒロキ）君の父親である脚本家・山下久仁明氏が「一人でも多くの人たちに自閉症のことを知って欲しい」という思いから2002年に書き下ろした小説です。映画化を企画し、インターネットで制作費のカンパを呼びかけた矢先の2006年3月、山下氏は中学を卒業したばかりの大輝君を事故で亡くされました。その3年後、全国の賛同者1,000人以上からの寄付金をもって、2009年の春、ついに映画が完成し、東京で上映され、大好評でした。この映画を是非奈良でも！！という声にお答えし、上映することになりました。是非皆様お誘いあわせの上お越しください。

日時 平成22年1月30日（土） 9：45～受付開始
10：00～上映開始 上映時間（1時間43分）

場所 奈良市北部会館 市民文化ホール

奈良市右京一丁目1番地の4 奈良市北部会館3階 TEL 0742-71-5747

近鉄京都線高の原駅下車、南へ徒歩約5分 <http://www.hokubu-hall.city.nara.nara.jp/access.html>

参加費 無料（カンパ箱を設置していますので、ご協力よろしくお願いします。）

定員 200人 申し込み不要 当日受付しますので直接会場にお越し下さい。

問い合わせ先：渡邊 智美 etomomi@d1.dion.ne.jp、河村 舟二（事務局） 0743-55-2763

障害者施策にわれわれの声を！

障がい者制度改革推進会議のメンバー、および、障がい者総合福祉法の制定と障害者基本法改正に向けての会議にも、是非、日本自閉症協会は積極的に入ってほしいと思います。（河村）

○障害者施策に障害者：政府の改革本部 当事者が参加へ

政府は8日の閣議で、障害者がかかわる制度を集中的に改革する「障がい者制度改革推進本部」（本部長・鳩山由紀夫首相）を内閣に置く方針を決定した。全閣僚で構成し、下部組織に障害者を入れることで、当事者の意見を制度設計に反映させる。障害者団体が施策立案に加わることを求めている。

改革推進本部の下に設ける実務組織の障がい者制度改革推進会議（仮称）は、メンバーの半数以上は障害者団体の関係者を起用し、トップには障害者の当事者を充てる方向で調整している。同会議は、本部が決める障がい者制度改革推進計画の案に意見を述べるほか、制度改革に関する事項を調査、審議する。

年内に推進本部の初会合を開き、年明けから本格的な協議を進める。当面5年間を「改革の集中期間」と位置

づけて取り組む。障害者施策を所管する福島瑞穂消費者担当相は8日の閣議後の記者会見で、「当事者の意見を大いに反映するようにと考えている」と説明した。

本部の設置方針は、民主党のマニフェスト（政権公約）にも明記されている。政権交代直後に、長妻昭厚生労働相が福祉サービス利用の際に原則1割の自己負担を課す障害者自立支援法の廃止方針も表明。同法に代わる「障がい者総合福祉法（仮称）」の制定や、障害者施策の基本理念を規定した障害者基本法の改正などが検討課題になる。（朝日新聞12月9日）



平成21年度 赤い羽根共同募金助成金事業

特定非営利法人奈良県自閉症協会 自閉症の理解と支援の為のつどい

自閉症理解講座

あなたが あなたで あるために！

その子らしさを 生かす 子育て

～思春期の安定・思春期の飛躍～

講師 吉田 友子 医師

(児童精神科医師・ペック研究所主宰)

日時 平成22年1月30日(土)

13:00～16:30(12:30受付)

場所 奈良市北部会館 市民文化ホール

奈良市右京一丁目1番地の4 奈良市北部会館3階 TEL 0742-71-5747

近鉄京都線高の原駅下車、南へ徒歩約5分 <http://www.hokubu-hall.city.nara.nara.jp/access.html>

参加費 1,000円 定員 200人

申し込み不要 当日受付しますので直接会場にお越し下さい

お問い合わせ 光野 節美 nahi-kon@m3.kcn.ne.jp 河村 舟二(事務局) 0743-55-2763

ペック研究所とは、Institute of PsychoEducation for Children のことで、子どものための心理学教育研究所の略です。自閉症アスペルガー症候群の子どもたちが自分自身について学んでいくための道しるべを、子どもたちと一緒にみつけていきたいと願っています。 <http://www.i-pec.jp/index.html>

吉田 友子(よしだ ゆうこ) 東京都出身 児童精神科医師

1985年、東京慈恵会医科大学卒業。聖マリアンナ医科大学病院精神療法センター・東海大学病院児童グループ・横浜市リハビリテーションセンター児童精神科勤務を経て、横浜市北部地域療育センター設立(1994年1月)から6年間児童精神科部門を担当。よこはま発達クリニックの設立準備に携わり2000年2月より勤務。現在も診察はよこはま発達クリニックでのみ行っている。1994年より横浜市内の福祉保健センターで1歳6ヵ月児療育相談を担当。

著書 ・高機能自閉症 アスペルガー症候群

「その子らしさ」を生かす子育て

中央法規出版 改訂版 2009/6

・あなたがあなたであるために

自分らしく生きるためのアスペルガー症候群ガイド

吉田友子著 ローナ・ウィング監修 中央法規出版 2005/6



イラスト伊藤じゅんいち

平成21年度独立行政法人福祉医療機構助成事業「自閉症児者の療育と就労資源開拓事業」

主催 特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会

成人支援者の為の勉強会ご案内

早期発見、早期療育の大切さは 認知されてきましたが、自閉症スペクトラムの人の支援は生涯に渡って継続必要です。成人の方や成人へ移行年齢の方の支援をされている方を対象に セミナーを計画いたしました。質の高い、きめ細やかな支援を展開できるよう、情報提供をはじめ仲間作り、幅広い様々な支援ニーズに連携して対応しながら 支援の成果蓄積をめざしたいと思っております。関係者の方のご参加をお待ちしております。

日時 11/4(水)・12/2(水)・1/20(水)・2/17(水)・3/17(水)

午後 6:30~8:30

場所 奈良商工会議所 A会議室 <http://www.nara-cci.or.jp/access/index.html>

奈良市登大路町36-2 *近鉄奈良駅 1番出口 すぐ

内容・講師

- ① 11/4(水) 自閉症の特性と支援の原則 中山清司氏 (北摂杉の子会スーパーヴァイザー)
- ② 12/2(水) 評価と個別プログラム 中山清司氏
- ③ 1/20(水) 事例「作業/就労支援の取り組み」 高橋亜希子氏 (アクトおおさか)
- ④ 2/17(水) 事例「入所施設の取り組み」 大中りよ子氏 (金剛コロニー)
- ⑤ 3/17(水) 行動マネジメント、Q & A 中山清司氏

参加費 無料 定員 50名 参加申込み FAX 又は メールにて 申込み締め切り 10月31日

参加対象者 中学生以上の支援をされている方で 原則全5回とも参加できる方

TEL・FAX 0742-36-0205 asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

ふりがな		性別・年齢	会員の有無
名前		男・女 () 歳	会員 非会員
連絡先	TEL/FAX		mail (携帯可)
所属先			

該当するところにチェックと 記入をお願いします。

☆ 支援している人の(対象)年齢 () 歳 ☆ 支援を始めて () 年目

構造化支援をしている:() 年目 支援について 悩んでいる

奈良県自閉症協会講演会・セミナーに参加した事がある

奈良県自閉症協会活動ボランティア経験あり

参加希望動機 []

平成21年度独立行政法人福祉医療機構の助成による「自閉症児者の療育と就労資源開拓事業」

発達・療育相談の実施のお知らせ (無料)

自閉症スペクトラム児の発達・療育相談会を電話・FAX・メールにて 個人の発達相談をお受けいたします。相談員は、ペアレントメンターが同じ悩みを持つ親の立場で相談を受けます。必要な場合は 発達相談員、障害児学級教員、養護学校教員などのボランティアによる ご相談もお受けいたします。

問い合わせ・申し込みは FAX 又は メールにて ご連絡下さい。

TEL/FAX 0742-36-0205 (TELの場合は留守電に連絡先を)

E-mail asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

奈良県自閉症協会HP <http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

☆ FAX と メールによる簡単な相談も 随時受け付けいたします。

1週間以内に 返信いたします。 メール希望 () FAX希望 ()

相談者氏名		本人との続柄
又は 参加者		
住所	〒	電話 FAX
奈良県		
生年月日	年 月 日 () 才	
ふりがな 名前		男・女
学校又は職業	() 保育所・通園施設・幼稚園・小・中学校・高等部・就職・作業所	
生活の場	自宅・施設	自閉症協会 1. 会員 2. 会員でない (○をつけて下さい)
今回相談なされたい内容 (事例提供・相談者のみ)		

*お寄せ頂いた情報は相談会のご連絡や 相談以外には使用いたしませんのでどうかご安心願います。

*上記の番号の電話を 同じ自閉症児者を育てている保護者たちで お電話をお待ちしております。最初はお話を聞かせてもらうだけで 精一杯ですが専門家の方や いつもお世話をかけている支援者さんには お伺いしにく事、今更こんなことを聞けない事など、仲間として気軽にお電話してみてください。

水曜日以外の11:00~14:00の間が 比較的、お電話を取りやすいです。

発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒536-0023

大阪市城東区東中浜3-5-16タイガーマンション1F

編集人：河村 舟二

定 価：100円